



## 7月1日と10月25日 創立記念日が2日!?

- 本校は現在、10月25日が創立記念日ですが、7月1日とした時代もありました。
- \* **10月25日**：昭和23(1948)年のこの日、前身である県立有馬高等学校定時制課程吉川分校開校。第1回入学式挙行。→平成15(2003)年のこの日、創立30周年記念式典挙行。⇒平成16年度、この日を創立記念日に制定。→現在に至る。
  - \* **7月1日**：昭和49(1974)年のこの日、県立吉川高等学校として4月に独立した本校の開校記念式挙行。校旗披露・校訓発表。【左写真】※校歌は昭和50年10月。⇒7月1日を創立記念日に制定。→平成15年度まで続く。
- 今日は7月1日。そこで、校歌・校章を手掛かりに本校の歴史の一端に触れます。

## 吉川の里・古城の丘・六甲の連峰

校歌の歌いだし、1番は「吉川の里に 朝(あした)来ぬ」、2番は「古城の丘に 太陽(ひ)が昇り」、3番は「六甲(むこ)の連峰(みね)に 日は遥(はる)か」で始まります。

校章の由来は、「緑の山野、流れる雲、清澄な大気。この理想郷よかわの『よ』の象形。その上部は、窓辺に英姿を見ることができるいわれ多き六甲の山並みの北背部にあたるため甲(かぶと)の象形を兼ね、下半分は、ふくらみをもたせ新時代に即応し得る英知と行動との調和の取れた凝集体を表し、中央には、『能力の開発善用』の校訓を顕示した教育目標を高々と掲げた」と『創立十周年記念誌』に記されています。

右の写真は、学校の北北西、吉川町古市の高台から撮影したものです。**小高い丘=古城の丘の上に建つ校舎、手前には人の営みと自然が調和した水田が広がる吉川の里、背後には六甲山系。校歌にうたわれた風景と校章のイメージが具現しているように見えませんか。**



## 渡瀬城の跡地が本校に!?

「渡瀬古城跡 0.1km」— 通用門下の県道脇に看板があります。案内に従って進んでいくと、本校体育館に隣接するこんもりとした森の中に石碑が二つあります。碑には「光岳宗養居士好勝之墓」【右写真】、「石田宗簡治重之塔」と刻んであります。

さて、二人は何者で、渡瀬古城と本校の関係はいかに？

以下、「ふるさとの風物百景画文集『スケッチで巡る吉川の里』(石田安夫 著作発行)」より引用します。

鎌倉時代初期、宇多天皇の後裔近江の佐々木氏は源頼朝より渡瀬郷を賜り、文治元年(1185)にこの地に来住し地名の渡瀬氏となり、その五代目の子孫である渡瀬綱光が築城する。その六代後、渡瀬小次郎好光は三木合戦(羽柴秀吉が1578~1580年にかけて行った播州征伐の一つ)が始まると城を焼き払い関東に移り、後に諸侯の権力に巻き込まれ宇都宮で切腹した。弟の好勝は三木合戦で討死した。**渡瀬城址は現在の吉川高校とその上の山辺り**で、堀切や土塁の残欠が古城の跡を偲ばせ、小高い山中に渡瀬左馬助好勝と家臣の石田宗簡治重の碑が苔むした姿でひっそりと佇(たたず)んでいる。(引用終わり)

**古城の丘に集い来て「いざ探究(きわ)めなん 我が能力(ちから)」「いざ修めなん 人倫(ひと)の道」** [2番] と日々生徒が努力し、「師弟同行」で教職員が手伝う。それこそが吉川高校が誇る歴史と伝統です。



兵庫県立 **吉川高等学校**

Yokawa High School

★右上の写真に校章を重ねるつもりで見比べてくださいね。

〒673-1129 三木市吉川町渡瀬300-12

Tel 0794-73-0068 Fax 0794-73-0167

